

グルジア政治・経済 主な出来事

【4月22日～4月28日】2013年

〔当地報道をもとに作成〕

平成25年5月1日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

欧州評議会議員会議(PACE)の露代表団がアブハジア、南オセチア、沿ドニエストルにもコソボと同様の参加資格を与えることを要求(22日)

・コソボには総会での投票権はないが、委員会に出席することが許されている。

【アブハジア】

駐イタリア・アブハジア「外務省」代表者がサン・マリノ共和国社会党の会議で演説(21日)

・サン・マリノによるアブハジアの早期承認と外交関係の樹立を求めた。

社会・経済協力に関するアブハジア・ロシア政府間委員会の第5回会合議定書が署名される(24日)

・ラケルバイア・アブハジア「首相」とフロポニン露副首相がモスクワで署名。2010年から2012年までの社会・経済発展についての協力計画の成果を総括。

2013年のロシアからの観光客が前年比25%増となる見込み(24日)

野党「国民統一フォーラム」が「多くのグルジア人住民に対してアブハジア市民権が違法に付与された」と主張(24日)

・ヘツィア「内務大臣」は主張を否定し、「アブハジア市民権を得るためにはグルジア市民権を放棄しなければならないが、放棄すると住民はグルジア政府に逮捕される危険があるため、その証明書を求めることは省略しており、政府としては確認することもできない」と説明。

【南オセチア】

南オセチア「検察」が2008年の戦争でのグルジアの軍事犯罪についての刑事訴訟を開始(24日)

関係の改善には国際的な支援が必要だと訴えた。

パンジキゼ外務大臣がブリュッセルで行われたNATO-ISAF協力国外相会合に出席(24日)

・2014年のISAF終了まで協力を継続することを表明。アフガニスタンから欧州への部隊の帰還の際に、「最も短く効率的なルート」として、今年中に完成予定のバクー・トビリシ・カリスを結ぶ鉄道を利用することを提案。

イヴァニシヴィリ首相がストラスブールでポンタールーマニア首相と会談(24日)

パンジキゼ外務大臣がブリュッセルでケリー米務長官と会談(24日)

・ケリー米務長官はグルジアの欧州・大西洋との統合に向けたプロセスを高く評価し、アフガニスタンでの貢献に謝意を表明。米務長官はグルジアへの招待に応じた。

サーカシヴィリ大統領が米国を訪問(24日)

・25日、ラスムセン NATO 事務局長とグルジアの NATO 加盟へ向けたプロセスについて会談。

・26日、バイデン副大統領と米国との自由貿易協定などについて会談。副大統領はグルジアへの支持・関与を継続することを約束するとともに、大統領・政府・議会の協力を促した。

ボストン爆弾犯とグルジアとの関わりをグルジア内務省が否定(24日)

・露紙「イズヴェスチヤ」が「チェチェン人爆弾犯がグルジアで訓練を受けた」と報じたことについて、「爆弾犯はグルジアとのいかなる関係もない」と否定。

アラサニア国防大臣がブルガリアを訪問(25日)

・ブルガリアの国防大臣と会談し、グルジアの欧州・大西洋との統合への支持、EUMM を通じた貢献に謝意を表明。

3. 内政

米国民民主党国際研究所(NDI)が3月に実施した政党・政治家の支持率の調査結果を発表(22日)

・最も支持する政党として60%の回答者が与党連合「グルジアの夢」(GD)、10%が「統一国民運動」(UNM)を挙げている

・約30名の政治家について「好き」か「嫌い」かを質問した結果、「好き」の割合が最も高いのはイヴァニシヴィリ首相(75%)、サーカシヴィリ大統領が「好き」と答えたのは25%。野党政治家で最も「好き」の割合が高いのは、国会の野党リーダー・バクラゼ議員(UNM)で48%。

・「強い野党が存在することが重要である」と考える人は

2. 外政

アバシゼ対露関係特別代表とカラシン露外務次官が電話会談(22日)

・グルジアワインの露市場への輸出など、通商関係に進展が見られたことを評価。

イヴァニシヴィリ首相がPACE議長と会談(23日)

・PACEが求めているさまざまな改革の推進を約束。

PACEでイヴァニシヴィリ首相が演説(23日)

・前政権の独裁的な体質を批判し、国内で進んでいる諸改革を説明。NATOへの加盟を目標とすることを確認。対露関係については、二国間対話を始めたことに言及し、

回答者の約8割。

与党連合「グルジアの夢」(GD)のダヴィタシヴィリ議員が保険会社の利益を代弁しているとしてセルゲエンコ労働・保険・社会保障大臣を非難(23日)

・「セ」大臣とイヴァニシヴィリ首相は、「ダ」議員の非難を根拠のないものとして批判。

サーカシヴィリ大統領が国会の承認した司法最高審議会の改革案に拒否権を発動(23日)

・発効とともに、改革案の規定する資格を満たさない現在の審議員が職を解かれることについて、「ヴェネチア委員会の勧告に反する」として反対。

・国会は15日以内に、大統領の要求する修正を受け入れるか、あるいは修正せずに再承認して再び大統領に送付する。大統領が再び署名を拒否すれば、国会議長が署名をして発効する。ウスパシヴィリ国会議長は(UNMが強く反対しているが)「再承認できるだろう」との見通しを述べた。

・大統領府から国会に送付された修正要求では、「大統領が審議員1名を指名する」ことを求めている。現行では2名を指名することになっているが、改革案では0名。今年の大統領選後に発効する予定の憲法改正案でも、大統領による審議員の指名が規定されており、憲法との矛盾を指摘している。この矛盾はヴェネチア委員会からも指摘されていた。

大統領が新しいシダ・カルトリ地方の知事に副知事であったズラブ・チヘイゼ氏を指名(24日)

イヴァニシヴィリ首相がロポタ渓谷の事件についてコメント(26日)

・TVインタビューで、ロシアとの関係改善の努力として「ソチ五輪への支持」とともに「ロポタ渓谷の事件の調査」を挙げた。調査が「衝撃的な事実を明らかにするかもしれない」と発言。

・「グルジアで本当にテロリストの訓練が行われていたと思うか？」と質問され、「その可能性はある」と返答。

・国のイメージが損なわれることについて、「他の国が調

査をして事実を確認したならば国のイメージが損なわれるだろうが、グルジアの新政府が調査を行い、今後このような行動を拒否することを示したならば、国の利益になる」と述べた。

・訪米中のサーカシヴィリ大統領は「政府がテロリストの訓練に関与していたことはない」として、首相の発言を非難。

3地区で行われた国会の補欠選挙でGD候補者が当選(27日)

・トビリシ・ナザラデヴィ地区および、グルジア西部のサムトレディア、バグダティで実施された。いずれの地区でもGD候補者が当選。

4 . 経済

コヴザナゼ・パートナーシップ基金理事とベルタイア国家投資局局長が日本を訪問し、アジア開発銀行主催の官民パートナーシップについての年次会議に出席(22日 - 25日)

国家統計局が2013年第1四半期の貿易統計を発表(24日)

・貿易額2144百万ドル(前年同期比5%減) 輸出額565百万ドル(同5%増) 輸入額1579百万ドル(同8%減) 貿易収支は1013百万ドルの赤字。

・貿易相手国は地域別に CIS 諸国 33%、EU 諸国 26%、その他 41%。主な貿易相手国はトルコ、アゼルバイジャン、ウクライナ。

トビリシでグルジア・中国ビジネスフォーラムが開催される(24日)

・中国大使館、グルジア・パートナーシップ基金、グルジア国家投資局が主催。工業、エネルギー、不動産、農業などの分野の中国企業40社が参加。

トビリシでグルジア・ウクライナ・ビジネスフォーラムが開催される(26日)

・ウクライナの企業約50社が参加。カラゼ・エネルギー天然資源大臣はエネルギー部門への投資を推奨。